

# 花芽分化以降の遮光によるストックの開花調節

～発蕾後10日程度の強遮光で、10日程度の開花抑制が可能！～

## 背景

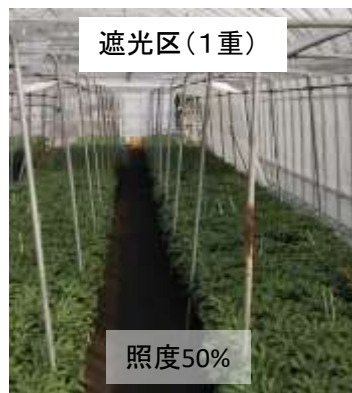
- 7月下旬から9月に播種を行うストックの開花時期は気象の影響を大きく受ける  
→有利販売(計画出荷)のためには、気象状況に左右されない**精度の高い開花調節技術が必要**
- 花芽分化期の気温が冷涼に推移すると、開花が前進し、草丈が短くなる  
→花芽分化前1か月程度の遮光により開花抑制が可能であるが、近年の劇的に変化する気象状況に対応するため、**より細かな開花調節技術が必要**

**方法** 花芽分化後または発蕾後に寒冷紗を用いた遮光処理を下表のとおり実施

	8月			9月			10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
無処理	●														
花芽分化後遮光	●														
花芽分化後強遮光	●														
発蕾後強遮光	●														

●：播種    ▲：花芽分化    □：発蕾

■ (白)：遮光 (遮光率50%寒冷紗を1重で1か月程度被覆)  
■ (黒)：強遮光 (遮光率50%寒冷紗を3重で10日程度被覆)

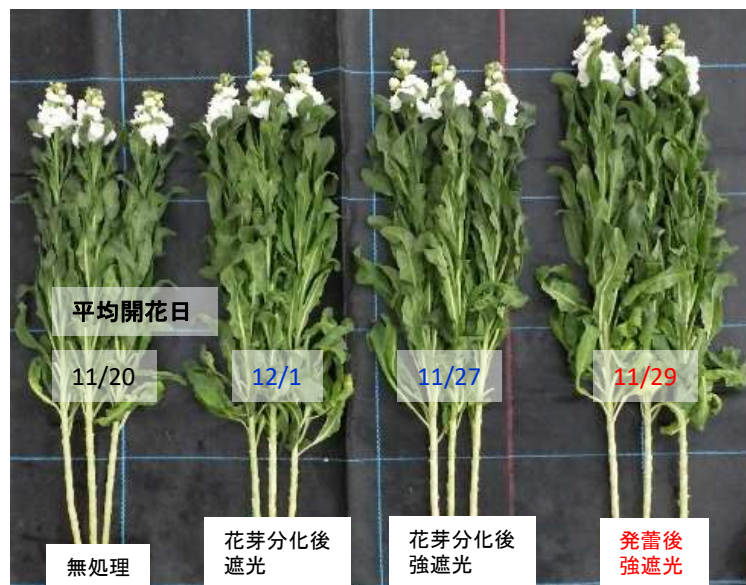


処理区の平均照度(対無処理)

注) 供試品種: 'ホワイトアイアン'  
遮光資材: 遮光; ふあふあエース50  
強遮光; ふあふあホワイトプラス50  
(ともにダイヤテックス(株))

## 結果

○ 花芽分化後1か月程度の遮光、10日程度の強遮光、および発蕾後10日程度の強遮光で10日程度開花が遅れた  
→ **花芽分化期以降**の遮光、特に**発蕾後短期間の強度遮光**でも**開花抑制効果あり**



遮光処理ごとの平均開花日および切り花品質

○ 遮光により切り花長が長くなる

○ 遮光による切り花のボリューム低下はなかったが、花穂密度がやや低下した

## 留意点

- ・ 遮光による開花抑制効果は年次変動が大きいいため、気象条件に注意する
- ・ 花芽分化以降の遮光を行う際は、花穂密度の低下に注意する